

～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

## ◆VCN°49 ドメーヌ・レ・ドゥーテール

生産地方：アルデツシュ

## 新着ワイン5種類♪

## VdF ヴァン・ニュ 2023 (白)

マニュエル曰く、2023年はまだ温暖化の影響を受けていない20年前のアルデツシュの白を彷彿させるシンプルで清涼感のある味わいに仕上がったとのこと。2023年は、ここ近年のアルデツシュには珍しく日照量と降雨量のバランスが良く、収量にも恵まれた生産者にとっての当たり年だった。前年は猛暑と日照りによりシャルドネとユニブランの成熟がほぼ同じタイミングだったのに対し、2023年は雨の影響もあり収穫日に3週間以上の差が出た。醸造は苦勞なく発酵も教科書のようにスムーズに終わった。出来上がったワインはフレッシュ&フルーティーで、ハーブのような苦みが心地よい爽やかな味わいに仕上がっている！SO<sub>2</sub>無添加でこれだけのきれいなワインをつくり上げれば、ナチュラルワイン好きにはもちろん、幅広く評価されること間違いなし！

## VdF ラドレ 2023 (白)

2023年はブドウが早熟の年だった。特に、ラドレは南向きの畑でブドウの完熟が早いので、酸が落ちる前に早めに収穫を行なった。醸造は、フレッシュさを残すために樽は使用せず100%ステンレスタンクで仕込んだ。出来上がったワインはフレッシュ&フルーティーで、アプリコットやヨーグルトなどヴィオニエのアロマの特徴が良く出ている！また、分析もSO<sub>2</sub>無添加、ノンフィルターなのにクラシックなワイン以上に欠点のないクリアさに驚き！味わいも上品かつ清涼感があり、気持ち早めに収穫しブドウに酸を残したマニュエル&ヴァンサンセンスの良さが光る！

## VdF ヴァン・ニュ 2023 (赤)

清涼感のある玄武岩のリュサス地区、そして骨格のある石灰質のモンフルーリー地区のグルナッシュを混ぜて仕込んだヴァン・ニュ。2023年は、太陽と雨に恵まれた年。谷間にあるリュサスは湿気によりミルデューが繁殖、反対に丘の上にあるモンフルーリーは日照りにより一部ブドウ焼けの被害に遭ったが、総じて収穫したブドウは健全だった。醸造は、今回全てのブドウを除梗し、ミルデューなどにより傷んだブドウは直接プレスしてジュースを醸しに混ぜた。出来上がったワインは、アルコール度数13%といつもよりもボリューム豊かだが、酒質はとてもしゃーミングで果実味もジューシー！タンニンも繊細で喉ごしも良く、まさに飲みごたえのあるヴァン・ド・ソワフ！少しスパイシーさもあるので、バーベキューなどシンプルに焼いた肉料理と相性が良さそう♪

## VdF ラ・ルブール 2023 (赤)

メルローを主体に熟成の必要なくすぐ飲める飲みやすい赤に仕上げたラ・ルブール。2023年は、メルローが55hL/haと収量に恵まれた。前はカベルネソーヴィニオンを25%アッサンブラージュしたが、今回はブドウ焼けで傷んだサンソーとシラーを25%直接プレスしてメルローに混ぜた。マニュエル曰く、収穫した当初メルローの潜在アルコール度数が12.5%と低くブドウの完熟が心配だったが、最終的にワインの味わいに未熟な青さも無く、酸と凝縮味のあるパーフェクトなタイミングでブドウを取り入れることができたとのこと。出来上がったワインは、メルローの風味がありながらコクのある凝縮味に角がなく、ジューシーで球体のような柔らかい果実味が最高！ワイン名「収穫祭」の通り、みんなで食事中に軽く1本空けたくなるような、そんなオールマイティーなワインだ！

## VdF ジグ・ザグ 2023 (赤)

2023年は、降雨量に恵まれたと同時にブドウ焼けするほどの猛暑が混在するような年だった。マニュエル曰く、収穫したブドウは酸とアントシアニンが多く、偶然ではあるがまさにワイン名ジグ・ザグのようなメリハリの効いた奥行きのあるグランヴァンに仕上がったとのこと！出来上がったワインは芳醇かつコク

のある果実味がスマートで、シラーを主体とした味わいがきれいに整っている！ブラインドだとローヌのサンジョゼフやコルナスを彷彿させるようなフィネスもあり、酒質の柔らかさの中に上品な骨格のあるスタイルはまさにドゥーテールの真骨頂と言えるだろう！

### ミレジム情報

2023年は、降雨量と日照量に恵まれた当たり年だった。冬のスタートは寒く乾燥していた。4月以降は定期的に雨が降りミルデューが開花のタイミングで猛威を振るった。花ぶるいに敏感なグルナッシュはこの時点で減収。その他のブドウは散布によりうまく対処できた。6月からは雨の降らない乾燥した天候が続いた。畑は全体的に水不足であったが、7月中旬にまとまった雨が降った。8月に40℃を超える猛暑が襲い、日照量の多いモンフルーリー地区のブドウがブドウ焼けの被害に遭った。最終的に7月中旬の雨により水不足を持ち堪え、さらに収穫直前の8月24日に適度な雨が降り果汁多く含む完熟したブドウを収穫することができた。

### 「ヨシ」のつ・ぶ・や・き

6月中旬、日本への帰国前にマニュエルから現時点での畑の写真が送られてきた。今年はいつになく雨の多い年。さて、ドゥーテールの畑はどうなっているのか？



(写真①) ヴァン・ニュー白のシャルドネの畑

これはモンフルーリー地区のシャルドネの写真。ヴァン・ニューブランの畑だ。(写真①) マニュエル曰く、写真を撮った時はちょうど開花の終わりだったそうだ。パッと見だが、今年は雨に恵まれていることもあり、葉の色が濃く青々としていて写真からも健全な畑の息吹が伝わる。興味深いことに、6月の開花の時期にすでにロニャージュ（夏季剪定）を行なったような跡がある。後からマニュエルに聞いたところ、これは全て北風により枝が折れた跡なのだそうだ。今年は芽の伸びるスピードが早いため枝の硬さが成長に追いつかず、北風によって穂先が簡単に折れてしまったようだ。だがその一方で、この自然のロニャージュによりミルデューなど成長の早い穂先を襲う病気の被害をケアする散布を減らすことが出来たそうだ。また、7月中旬にはモンフルーリー地区全体に雹が降りシャルドネの畑も雹に当たったが、開花がうまく行きブドウの房が多かったおかげで相対的に収量の減少は最小限に抑えられたとのこと。



(写真②) ヴァン・ニュー赤のグルナッシュの畑

次に、上はリュサス地区のグルナッシュ（写真②）、右はヴァン・ニュー ルージュの畑だ。（写真③）こちらは目下開花の真っ最中。マニュエル曰く、今年は奇跡に何度も救われたとてもラッキーな年とのこと。「グルナッシュは他の品種よりも花が流れやすい。今年は雨が早く一番先に収量が減るのはグルナッシュと思っていたが、実際今のところ収量が一番期待できるのが意外にもグルナッシュ！」前年収量を減らした分の溜まったエネルギーがグルナッシュから放出された上に降雨量に恵まれ、さらに開花時は偶然雨に当たらなかったことが房に恵まれた要因ではないかと彼は分析する。

雹に当たったシャルドネも、雨に恵まれた分スタートの房の量が多かったことで今のところ相対的に収量は大きく減っていない。グルナッシュも珍しく花ぶるいに遭わず収量を確保している。シラー、メルロー、サンソーなど他の品種もこのまま行けば比較的収量が期待できるそうだ。



(写真③) 開花中のグルナッシュ

今年はアルデッシュの当たり年なのか、と最後にマニュエルに聞くと彼は Non と答えた。「我々はこのまま何も問題がなく収穫までたどり着ければ当たり年と言えるだろう。だが、周りのアルデッシュの生産者は雹や病気の被害で大きく収量を落としている。我々がたまたまラッキーなだけでいつ同じような被害に遭うかわからないくらい今は気候が不安定と言わざるを得ない」。実際彼らのモンフルーリー地区は、降雹の中心となったエリアから数キロ離れていたため大きな被害は免れたが、雹が直撃した数キロ南のアルデッシュなどは、ブドウがゼロになるほどの災害があったそうだ。「災害はまるでロシアンルーレット」と語るマニュエル。今年このままうまく収穫までたどり着けば、ブドウの一部を災害に遭った仲間の生産者に分ける予定だそうだ。

(2024.6.12.のメール&8.15.の生電話より)

※弊社HP「フォト・ギャラリー」にて、カラーでサイズの大きい鮮明な写真をぜひご覧くださいませ